

「二」次の文章をよく読み、後の各問いに答えなさい。(問題の出題上、省略した部分があります。)

文章は建築に似ている、といわれる。

A 言葉をつみ重ねて文をつくることは建築材料に煉瓦や木材を使うのに似ているし、段落や文章の長さ、ふり合いを考えることは家のまどりや部屋の大きさを案配するのに似ているし、
B 起承転結などということは、地上から屋根までの釣り合いを考えて、家がカラムいたり、タオれたりしないようにするのに似ているともいえる。しかし近代的な意味で建築と文章が似ているというのは、もう少し別な意味がある。

近代の建築は材料に化粧をやらないで、材料そのものの性質を生かすことに努力している。昔は鉄にしても木にしても、これをそのままむき出しに使わずに、塗料をぬったり、模様をつけたりして、鉄や木をできるだけ鉄らしくなく、木らしくなくつくりあげることが主眼とした。どんな木にも厚い塗料がぬってあり、どんな鉄材にもお化粧がしてあって、いろいろのかざりのついた建築ほどよいとされた。
C 近代ではそうではなく、鉄なら鉄、木なら木の性質をそのままできるだけムキ出しにして、しかもそこに効果をねらおうとする。「I」鉄を木のようなカッターにせず、ただ曲げたままの調度や、木の目をそのままに見せた白木にひとしいものや、ガラスの明るさ、ほがらかさをそのままに生かした建物などが近代建築の正道であるとされ、お化粧をほどこした建築はかえって排撃されるにいたっている。「II」

D 近代建築は昔の建築とことなつて、できるだけ、かざりや、よけいなものを排除する。柱にかざりをつけたり、壁に模様紙をはつたりしたのは昔の建築で、今は柱は柱のまま壁は壁のままに、その職能を果たすように設計されたとき、それは何のかざりをもたなくとも美しいとされる。昔は木には塗料をぬり、鉄にはペンキをぬった。「III」しかしこれは木や鉄の自然のままの美しさを生かす真の方法ではない。「IV」木の木目が充分に生かされ、鉄のもつ曲線や力強い色調がそのままに効果をうむのでなければ、よい建築とはいわれなき、それはそのままですでに充分美しい。「V」近代建築のテイシヨウ者はこうシユチュヨウする。

E これにともなつて、建築材料の性能をできるだけ生かそうとする目的のもとに、そのメカニズムの研究と応用とが重要視されるようになった。そこで新しい建築が今までよりもまさつて、近代科学との密接なむすびつきを要望し、これの実現につとめていることが理解

される。

文章の中でも同様のことがおこりつつある。文章が修辭法の助けをかりないで美しいと考えられなかつた時代はすぎさつた。どんな状態をも個性のない、にぶい色で一様にぬりつぶしてしまう伝統的修辭学の化粧法は、もはや現代文章の準則^{※4}とはなり得ない。現代文章は何よりもまず、自己の思想が、あらわに出ていなければならぬ。思想と文章との一致、これが現代文章の唯一の準則である。かくてわれわれは思想から表現への最短キョリの探究のためには、新しい文章価値を伝統的修辭学の外にさがさなければならず、このためには、言語のメカニズムの研究がどうしても必須とならざるを得ないのである。

かように現代文章の理論は言語のメカニズムへの異常な熱意をもち、科学と密接なむすびつきを示しているという点で、現代建築と似ているということができるのである。

(波田野完治『文章心理学』より)

【語注】※1案配……程よく配置したり処置したりすること

※2排撃……押しつけようとして非難し攻撃すること

※3職能……あるものが全体の中で果たす役割

※4準則……手本とすべき規則

問一 線部 a ~ e のカタカナを適切な漢字にしなさい。

問二 空欄 A ~ E に補うのに適当な語句を次の中から一つずつ選び、それぞれ記号をマークしなさい。

- ① かように ② また ③ なるほど ④ ところが ⑤ そうして

問六 — 線部ウ「言語のメカニズムの研究がどうしても必須とならざるを得ない」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文の空欄に補うのに適当な箇所を、本文中より、一〇字以内で抜き出して答えなさい。

『()をさせるため。』

問七 この文章で筆者が最も言いたかったことは何か。次の中から一つ選び、記号をマークしなさい。

- ① 言葉をつみ重ねて文をつくることは建築材料に煉瓦や材木を使うのに似ているということ。
- ② 近代の建築は材料そのものの性質を生かすことに努力しているのだということ。
- ③ 近代建築は昔の建築と異なつて、できるだけ、かざりや、よけいなものを排撃するということ。
- ④ 現代文章は何よりも自己の思想が出ていなければならぬということ。
- ⑤ 現代文章は科学と密接なむすびつきを示している点で、現代建築と似ているということ。